

事故防止及び 事故発生時対応 マニュアル — 基礎編 —

み

ま

も

い

睡眠中

水遊び中

食事中等



はじめに

本市では、平成28年4月に認可外保育施設において、児童の死亡事故が発生しました。「こども・子育て支援会議 教育・保育施設等事故検証部会」より出された提言の中でも、事故対応マニュアルの整備が必要と示されています。

この「み・ま・も・り - 基礎編 -」には、

**事故予防のためには何が必要か
具体的には何をすればいいのか
事故が起きてしまったらどうすればいいのか 等**

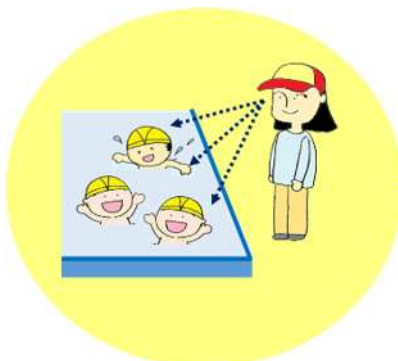
重大事故が発生しやすい場面（睡眠中、プール活動・水遊び中、食事中等）や緊急時の対応をチェックポイントで示しています。

重大事故とは・・・死亡事故、意識不明等の重篤な事故

一つひとつチェックすることで、基本的な安全確認ができるようになっていきます。安全で安心な保育を行い、大切な『こどもの命を守る』ために、ぜひご活用ください。

目次

- **みんな**で取り組む事故予防 ～こどもの命を守るために～ P 1～3
- **まず**確認！睡眠中も保育中 ～睡眠時安全チェックポイント～ P 4・5
- **もちろん**配置！水遊びには監視役
～プール活動・水遊び安全チェックポイント～ P 6・7
- **リ**スクを減らす！いつも観察 誤嚥予防
～誤嚥・誤飲・窒息事故防止チェックポイント～ P 8・9
- **事故発生時の対応** P 10～13



みんなで取り組む事故予防

～こどもの命を守るために～

事故発生時、

どう対応するか 想像できますか？

いつもならできることが
とっさにできない 可能性があります



早期発見 が

こどもの命を助けることにつながります



こどもを **見守り**、異変に気づく

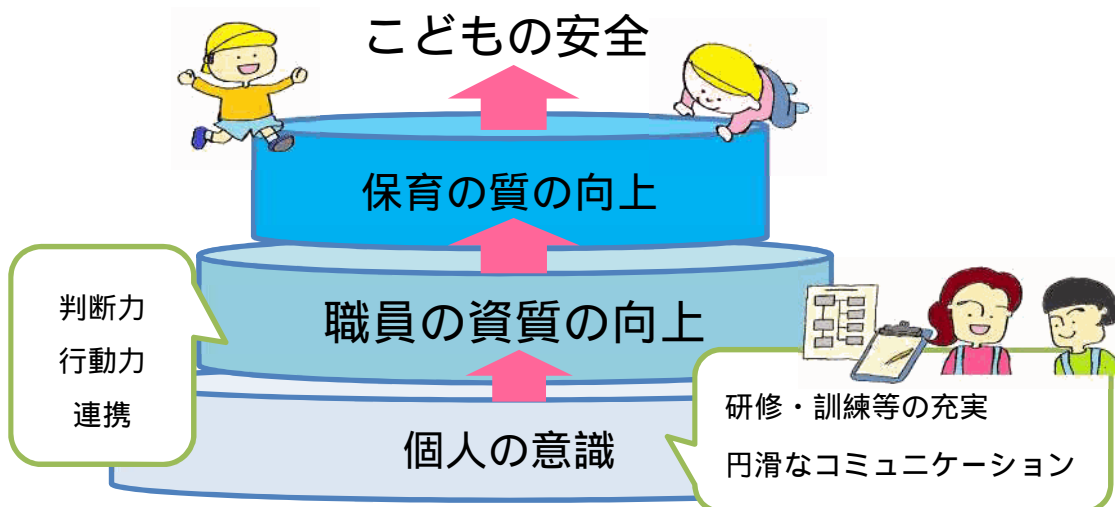


あなたの **気づき** がこどもの **命を守ります**

あの時こうしておけば・・・という思いをしないように

今できることを考えましょう

こどもが安心できる環境づくりには
職員一人一人の意識が大切です



「誰かが見てくれていると思っていた」ではなく
声を掛け合い、常にこどもの動きを把握しましょう



保育現場には、さまざまな体験の機会があります
 こどもたちは豊かな体験を通して成長していきます

一方で、

命に関わる危険なリスクも潜んでいます

例えば…

危ない！



窒息の危険のある遊具をプール時に
 使用してしまっていた！（ヒヤリハット※）

もしかしたら、口に入れてのどに詰めて
 しまったかもしれない・・・

口に入らなくてよかった～

プールでスーパーボールを使っていて、「ヒヤッ」としました。

プールでスーパーボールを使わないよう、再度、皆に伝えましょう。

ではなく！

職員間で予防策を考える

ヒヤリハットとは、事故になる可能性があった「ヒヤリ」「ハッと」したできごと

事故

「ヒヤッ」とした経験を
 職員間で共有することは
 事故予防につながります

チェックポイントを確認し、事故を防ぎましょう



重大事故が発生しやすい場面のチェックポイントをまとめました
それぞれの場面に合わせた危機管理を行い、事故を防ぎましょう

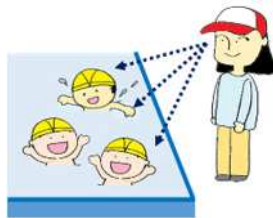
睡眠中

睡眠時安全チェック
ポイント(P 4・5)



水遊び中

プール活動・水遊び安全
チェックポイント(P 6・7)



食事中

誤嚥・誤飲・窒息事故防止
チェックポイント(P 8・9)



万が一、事故が起こってしまった場合



「事故発生時の対応(P10~13)」に従い、迅速に対応する



そのためには事前に**シミュレーション**(状況に応じた役割分担の訓練)
を行っておくことが必要です!

職員間で事故予防や発生時の対応
について共通認識を持ちましょう



まず確認！ 睡眠中も保育中

睡眠時安全チェックポイント



睡眠時の安全確保

睡眠中が最も突然死等の危険性が高い！

『自園でも起こりうる』
かも...

「こどもの安全を最優先とする」意識の徹底



- ・睡眠中も保育である
- ・睡眠中のリスクの共有
うつぶせ寝・窒息・預かり初期のリスク 等
- ・見守り(観察・記録)に専念できる体制づくり
- ・緊急体制の整備
 - ✦ 心肺蘇生法・AEDの操作研修の実施
 - ✦ シミュレーション研修(状況に応じた役割分担の訓練)の実施

チェックポイント



1 入園時の確認

入園児の生育歴等を把握する
配慮事項等がある場合、全職員で情報を共有する

SIDS 対策普及啓発用ポスター(厚生労働省)を掲示したり、リーフレットを配付する

こどもの健康状態等の情報を日々保護者と共有する(特に預かり初期は要注意)

こどもの状況に応じた慣らし保育の必要性を保護者に説明し、理解を得る



チェックポイント



2 睡眠中の観察

- 特に、預かり初期は注意深い見守りを！ —
- 0・1 歳児はうつぶせ寝を見つけたら、仰向けにする
 - 0 歳児は 5 分毎
 - 1 歳児以上は 10 分毎
- に観察する
- | 項目 |
|---------------------|
| ・名前の確認・顔色・唇の色 |
| ・呼吸状態の有無(呼吸音・胸の動き) |
| ・呼吸の様子(咳・ゼーゼー・鼻づまり) |
| ・熱感(体に触れて体温・発汗等) |
| ・体位 |
- その都度、睡眠時観察表に記録する





3

睡眠環境等の確認

カーテンは直射日光や寒さ防止等、必要な場合を除いて、基本的には明るさの確保のため開けておく



敷布団は固めのものか
 掛け布団は軽いものか
 コットの上のマット等は固定されているか
 枕は使用していないか
 布団やコットは観察しやすく並んでいるか
 室内の照明は顔色等が観察できる明るさか

適宜換気を行っているか



体調等いつもと違う様子はないか
 水分補給はできているか
 口の中に何も入っていないか

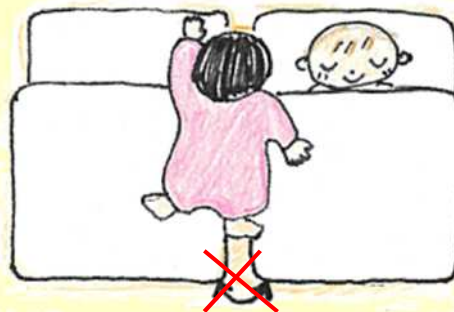
よだれかけは、はずしているか
 周囲に「ぬいぐるみ」「おもちゃ」「タオル」「コード等のヒモ状のもの」はないか
 おもちゃ等を持っていないか
 すき間に顔が埋まらないよう布団のすき間をあけている、もしくはすき間なくつめているか



動いて上にのることも



子どもが生活する高さ



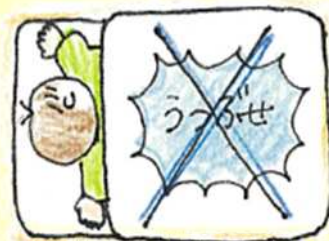
部屋は暖めすぎているか

寝かしつける時から仰向けにしているか

温度・湿度の目安

	温度	湿度
冬	20~23	約60%
夏	26~28	約60%

- ・室温湿度計は子どもが生活する高さに設置する（安全に留意しながら）
- ・冷房は床面の温度が2~3 低い場合があるので、睡眠時は留意する



睡眠中は床暖房やホットカーペットを使用しない（暖めすぎの防止）

もちろん配置！ 水遊びには監視役

プール活動・水遊び安全チェックポイント



安全対策の確立



監視体制の確立

監視者が監視に専念できる体制作り



緊急体制の確保

心肺蘇生法・AED 操作研修及びシミュレーション研修の実施（状況に応じた役割分担の訓練）



乳幼児の特性とリスク

10 cmの深さでも溺れることがある



安全を最優先に考え、十分な監視体制が確保できない場合は、プール活動の中止も選択肢とする

こどもの安全が最優先

監視者とは

監視体制の空白が生じないように専ら監視を行う者とプール指導等を行う者を分けて配置する



監視者はプールサイドの子どもたちと遊んだり、プール指導者の補助をしたりせず、監視に専念する者

「監視者」の目印等を決める



役割

- プール全域をくまなく監視する
- プールに参加しているこどもの人数を把握し、確認を適宜行う
- 動かないこどもや不自然な動きをしているこどもを見つける ← **静かに溺れることが多い**
- 特定のこどもに視線を固定せず、定期的に視線を動かしながら全体を監視する
異常かどうかの見極めは、**顔（特に目）**を見る
- 持ち場を離れる時は、代わりの職員を配置する

チェックポイント



1 事前管理

- 慢性疾患等の配慮を必要とするこどもへの対応の確認
- 当日プール活動ができないこどもへの対応の確認
- 排泄が自立していないこどもへの対応の確認
- プールに入る人数の確認（人数を考慮しているか）

チェックポイント



2 活動実施の判断

- プール活動ができる環境か
 - ・雨天、強風、雷が鳴ったとき
 - ・光化学スモッグ警報発令のとき
 - ・PM2.5 の注意喚起のとき
 - ・暑さ(熱中症)指数が高いとき
 - ・土、砂等による汚染が著しいとき

一つでも当てはまる場合は中止とする



: 設備・環境



: こども



: 職員

チェックポイント



3 環境の整備



- 日よけ対策は行っているか
- プールの破損・亀裂はないか
- 石やガラス等、危険物はないか
- プールサイドは滑りやすくなっていないか
- 排水溝の安全点検は行ったか

- プールの清掃と整理は行ったか
- プライバシーへの配慮は行っているか
- 監視場所に死角はないか
- 心肺蘇生法・AED 操作や緊急時対応のフローチャートをプール付近で確認できるか (P10~13 参照)
- 救急用具 (応急手当セット、毛布、笛等) の確認は行ったか

チェックポイント



4 活動前の確認



- プール環境は適切か
(気温 26 以上・水温 27 以上)
- 水深は年齢に応じて調整できているか
- 適正な塩素濃度になっているか
(塩素濃度 0.4 mg/L ~ 1.0 mg/L)



- こどもへの安全指導を行ったか

- 薬の預かりはないか
- 体温はどうか
- 顔色・機嫌はどうか
- 目ヤニ・充血・鼻水・発疹等はないか
- 傷はないか (あれば状態はどうか)



- 便の状態はどうか

- 水分補給は適切に行ったか

- 帽子を着用しているか

- 準備体操を行ったか

- シャワーで適切に体を洗ったか

- おしりに排泄物が残っていないか

- 窒息の危険があるおもちゃはないか

- 職員の健康状態はどうか



チェックポイント



5 準備物の用意



- 塩素剤
(使用上の注意を必ず読んでおく)
- 残留塩素測定器・試験紙
- 気温計
- 水温計
- プール管理日誌
- 時計
- 救急用具 (応急手当セット、毛布、笛等)
- 拡声器・携帯電話 (緊急時に応援を呼ぶ)

こどもの手の届かない位置に保管

チェックポイント



6 活動中の確認



- こどもの人数を把握できているか
- 人数を監視者に伝えたか
- 適正な塩素濃度を維持しているか
(10~20 分毎に測定する)
- 健康状態 (顔色や身体の様子) はどうか
- 監視者はプール全域をくまなく監視しているか



チェックポイント



7 活動後の確認



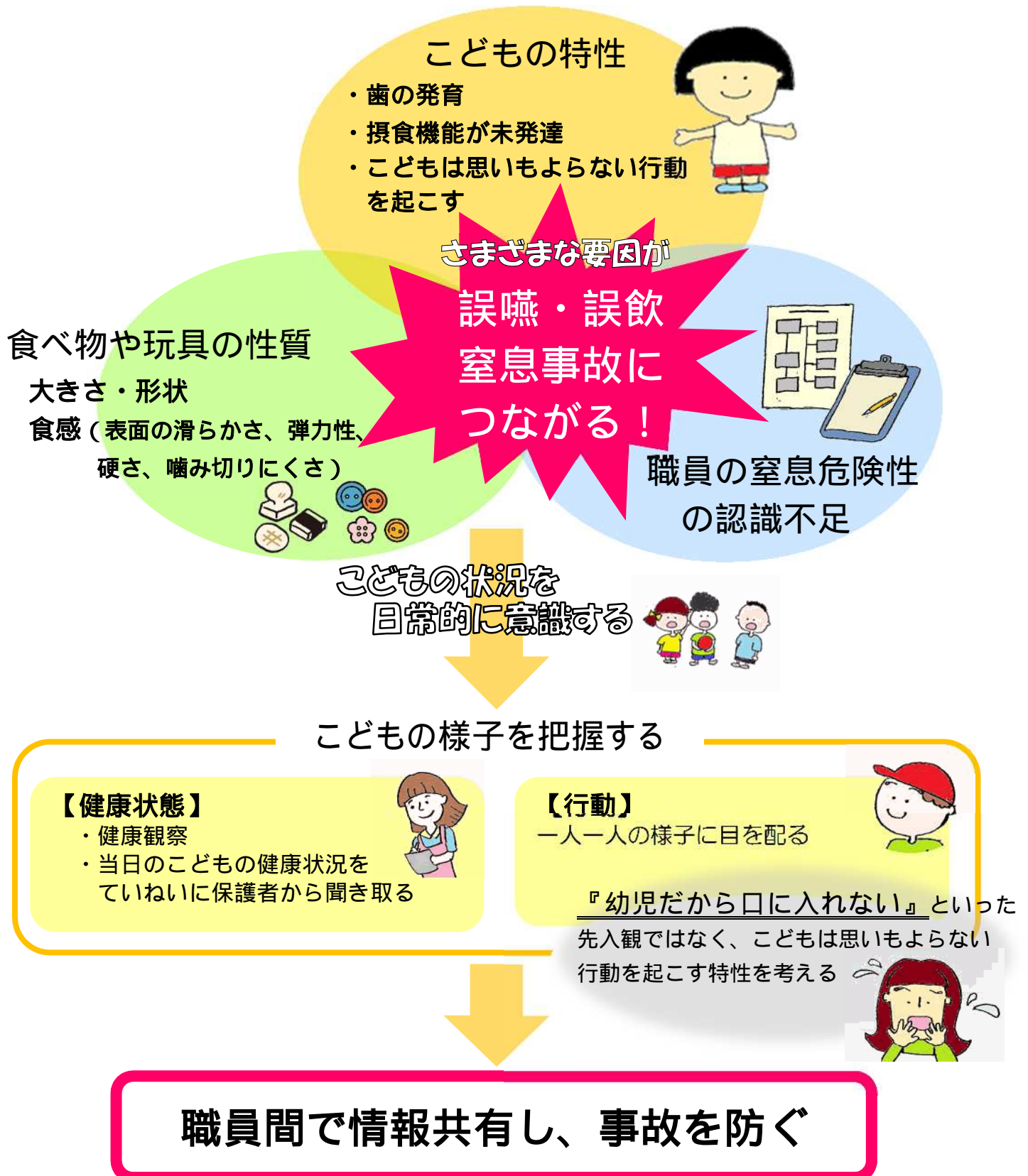
- ケガはないか
- 健康状態はどうか
- シャワーで体を洗ったか
- うがいをしたか
- 水分補給をしたか



- 保育室の室温は適切か
- 速やかにプールの水を排水し、鍵を閉め (カバーをかけ) たか
- プール管理日誌に記録をしたか

1) スクを減らす！ いつも観察 誤嚥予防

誤嚥・誤飲・窒息事故防止チェックポイント



食事



チェックポイント



1 環境

食器・食具は適切か
机・椅子の高さは適切か
慌てて配膳していないか
(誤配膳防止を含む)

チェックポイント



2 食品の形態

大きさ・形状・温度・量・粘着度等は適切か
個々に応じたひと口の量・大きさに調整しているか

チェックポイント



3 食事時間

ゆったりとした保育の流れとなるよう工夫しているか
食事前に水分を摂ったか
詰め込まないよう指導できているか
食べるスピードが速すぎないか
よく噛むよう指導できているか
「笑う」「泣く」が起きた時には詰まらないかどうかを観察できているか
眠くなっているときに無理に口の中に入れていないか
食べ終わりに口の中が空になっていることを確認したか

食事以外(保育時間中)

チェックポイント



誤嚥・誤飲・窒息につながるものを持ち込んだり、身につけていないか
(家庭や園外から、おもちゃ、小石や木の実等の自然物、菓子・雑貨、フード付き上着等を持参していないか)



発達に応じたおもちゃを選択しているか(素材や大きさなど)

ボタンや髪留め、飾りやアクセサリ、ビニール袋等が身近にないか



こどもの手の届く場所に危険なものがないか(口に入るものなど)

薬品、洗剤、肥料の管理が徹底できているか



菜園活動中や散歩中等に、作物や木の実等を口に入れていないか

異年齢と一緒に遊ぶ場合は、状況に応じたおもちゃを選択しているか、または、コーナーに分かれて遊んでいるか

確認しましょう!

チャイルドマウス



51mm
の楕円形

3歳児の
最大口径
39mm 円形

この円形・楕円形の中に入るものはこどもの口に入ります

誤飲物を縦、横、斜めにして楕円形に入りそうなものは、こどもが飲み込んだり、窒息の危険があります

乳児クラスについては、身の回りに口に入りそうなものはないかチェックしてみましょう

事故発生時の対応（救命処置が必要な場合）

あっちで遊ば～



初期対応

応急処置ができるよう場所を空け、
他の園児をその場から離す

他児の保育

（担当： ）

チェックポイント

1 反応の確認

反応はあるか

反応がない

反応があるが、いつもの反応でない

チェックポイント

3 呼吸の確認

呼吸はしているか

呼吸がない

呼吸がある

心肺蘇生を行う
AED 装着

様子観察



こどもの側から離れない！

呼吸をしているか等、こどもから
目を離さず確認

心肺蘇生・応急処置

（担当： ）

P12 を見る！

こどもの観察・記録

（担当： ）

注意！

溺れかけたり、窒息しかけた場合は、元気そうに見えても、できるだけ早期に受診する

チェックポイント

2

救急車の手配

P13 を見る！



119 番通報（担当： ）



チェックポイント

4

連絡

- 保護者へ連絡
- 大阪市保育企画課へ連絡
[認可施設] 6208-8340
[認可外施設] 6208-8114



連絡係

（担当： ）

AED 設置場所

（ ）

救命処置

発見者！直ちに！その場で！対応開始！

反応を見る！

肩や背中をたたきながら大声で呼びかけても
何らかの応答やしぐさがなければ「反応なし」とみなす



周りに知らせる！119番通報！ 笛等で応援要請！人を集める！

呼吸を見る！

気道の確保

呼吸なし



呼吸をしていない時、即座にその場で人工呼吸開始！

反応がなく、呼吸がないか、**死戦期呼吸**（「口をパクパク」「あえぐような」呼吸）が認められる場合は**心停止と判断**、心肺蘇生(CPR)の適応と判断し、ただちに人工呼吸・胸骨圧迫を開始する
睡眠中は突然死が考えられるため、すばやく見極め緊急度を判断！口腔内の確認！

心肺蘇生 (CPR)

(胸骨圧迫30回：2回人工呼吸)
強く・早く・絶え間なく！中断しないこと！

呼吸が重要！

胸骨圧迫！

1歳以上



片手の付け根で
乳首を結ぶ線の真ん中
胸の厚さ約1/3
くぼむまで
少なくとも100~120回/分

1歳以上は口対口人工呼吸(鼻はつまむ)

1歳未満



中指・薬指の2本で
乳頭を結ぶ線の少し下
胸の厚さ約1/3
くぼむまで
少なくとも100~120回/分

1歳未満は口対口鼻人工呼吸(口鼻一緒に)
胸が軽く膨らむ程度の量で行う

AED 装着

心肺蘇生は救急隊に引き継ぐまで続ける！

電極パッド装着

AEDのメッセージに従う

必要あり

「必要」と音声 flowed たら音声に従い**電気ショックボタンを押す**
その後、心肺蘇生を再開する

必要なし

「不要」と音声 flowed たら、
ただちに、心肺蘇生を再開する

電極パッドを貼り付けるときもできるだけ胸骨圧迫を継続する

職員はAEDがどこに設置されているのかを把握しておく

各施設の名称、住所等、具体的な状況を入れましょう。

119番通報

【例】

種類・・・「救急です。」

場所・・・「住所は大阪市〇〇区〇〇、〇番地の〇〇園（施設名）です。」
「（目標物）〇〇郵便局の北側
100mです。」

通報者・・・「私は〇〇園（施設名）の〇〇です。
電話番号は〇〇〇〇 - 〇〇〇〇
です。」

被害状況・・・「〇歳児 名が〇〇な状態です。」

こどもの状態を聞かれたら簡潔に伝える。

参考

突然の病気やケガで救急車を呼んだ方がいいか、病院に行った方がいいか等、判断に困ったときは

『救急安心センターおおさか』に電話を！

電話 7 1 1 9 または 0 6 - 6 5 8 2 - 7 1 1 9
(携帯電話・PHS・プッシュ回線) (すべての電話)



事故防止及び事故発生時対応マニュアル - 基礎編 -

平成 30 年 4 月

発行者 大阪市

編集者 大阪市こども青少年局保育施策部保育企画課

〒530-8201 大阪市北区中之島 1 丁目 3 番 20 号